

# 憧れ・学び・誇り

## ～凛としたあいづっこの育成～

地域の  
特色ある  
活動

### 福島県会津若松市教育委員会

#### 1 はじめに

会津若松市は、戊辰戦争の悲劇を背負いながらも、先人たちの努力により復興を果たし、観光都市として今を生きる、人口約12万人の地方都市です。市街地の中心に史跡若松城跡（鶴ヶ城）、東に白虎隊自刃の地である飯盛山。北には、藩校として全国有数の設備・指導内容を誇った会津藩校日新館、名湯東山温



泉の入り口には、巨木に囲まれた広大な敷地に歴代の松平家藩主たちが眠る「院内御廟」がひっそりと市民を見守っています。

#### 2 学校教育の状況

本市の公立の小中学校は、小学校が18校、中学校が10校、児童生徒約570名の県内最大規模の義務教育学校が1校の29校です。本市では会津藩校日新館の「什の掟」を基にした「あいづっこ宣言」が制定され20年を迎えました。本市の子供たち全員が暗唱し行動の規範として定着していますが、教育委員会としては、今までの「覚えて言える」段階から「実際の行動に生かせる」段階を目指し、各校の教育目標の中に、あいづっこ宣言

の行動目標の一つを年次目標として選定し共通実践を推進しています。

#### 3 教育委員の活動

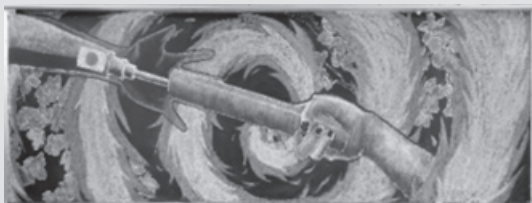
教育委員は市全体の教育環境の充実に向けた取組として定期的な会議に加えて、公開授業研究会やスクール議会、小学生と市長との懇談会、ビブリオバトル、中学生に「本物との出会い」を体験させる「映画から学ぶ」等に積極的に参加し、意見の交換等を重ねています。教育行政に対してレイマンコントロールをする立場として、現場を見て、市民の視点から施策の評価等をしていることにより本市教育行政の土台を形作っています。

#### 4 特色ある取組

(1) 前述した「本物との出会い」には多くの専門家と子供たちがかかわる事業を展開していますが、その中の一つである「映画から学ぶ」では、その映画製作に携わった映画監督や俳優等を招いた講演を行っており、樹木希林、永瀬正敏の両主演俳優が来校し、全校生徒に講話をいただく機会もありました。中学生が個人としてはなかなか鑑賞しない上質の映画、スクリーンで演じた名優たちからの直接の講話は、生徒たちの心の財産として植え付けられています。

(2) 文化振興を目的とした「あいづまちなかアートプロジェクト」事業は、本市の文化芸術行政の大きな柱です。二つのカテゴリーがあり、一つが「会津・漆の芸術祭」です。

全国の漆芸系大学、漆芸作家等によるアート作品の展示、会津漆器の逸品の展示、そして小中学生を対象とした出前講座など、漆文化に総合的に触れる企画です。もう一つが「まちなかピナコテカ（絵画展）」です。会津や福島県にゆかりのある若手作家の作品、中学校美術部と若手作家の共同制作作品など様々な作品を市内の施設等に分散して展示し、見学者が、本市の「まちなか」を周遊しながら数多くの作品を楽しんでもらえる企画となっています。更に、昨年度から中学生による黒板アートコンテストを開催しました。高校美術部の生徒が講師役として携わり、会場として借用した小学校の教室には15作品が掲示され、翌朝、登校した児童たちへのサプライズプレゼントとなりました。身近で新たな文化活動へのチャレンジは、子供たちの感性を磨いてくれることを実感しました。



(3) 学力向上については、教師の教える姿勢、子供の学ぶ姿勢の基本として會津教学「教えの心得」「学びの心得」を設定しました。また、焦点化した取組としては、昨年度から小5と中2を対象とした市独自の学力状況調査「チャレンジテスト」を作成し、全小中学校で実施しています。問題作成は、教育委員会指導主事と各校から選出された教員、周辺市町村から推薦された教員がチームを組み、意欲的に取り組んでおり、今年度はCBT化を目指し作成中です。

## 5 地域と学校との絆づくり

「地域総ぐるみで子どもたちを育てる環境づくり」を3本の柱で推進しています。1つ目は学校運営協議会の充実です。小中学校全校がコミュニティ・スクールとなり、幅広い視点から様々な意見が述べられ、各校のシン

クタンクとしての大きな成果を上げています。2つ目は、生涯学習総合センターが担う地域学校協働本部事業です。学校運営協議会との両輪として、地域ごとにコーディネーターを配置し、より組織的な学校支援、地域と学校との連結を図っています。3つ目は部活動週末合同練習会です。中学校においては生徒数減の実態及び複数顧問化の推進により、設置部活動数の削減も加速しており、生徒や保護者から「選択肢が狭められていくこと」に対する苦情も表出しています。本市では、2年前から、週末の部活動は種目ごとに希望校が合同で行い、その指導を地域の専門家に任せ、より多くの生徒をより多くの指導者で支える体制をスタートさせました。現在最も成果が表れているのが剣道競技であり、剣道部を設置するすべての中学校が加入し、指導者も剣道連盟から毎回10名程度が派遣されています。能力別グループ編制を行い、きめ細かい指導をしてもらえるため、生徒たちは意欲的に取り組んでいます。コロナ禍において、数多くの制限下にある子供たちの「学び、活動、想いを止めない」制度づくりに取り組むことは、教育委員会の喫緊の大きな使命です。



教育長  
寺木 誠伸